

## 世界情勢と主の回復に関する時機を得た言葉:

### #4: 私たちの信仰としての神をもって根気強く祈る

8/10-16 **OL Summary:** I. マルコ11:20~24で、主イエスは彼の弟子たちに、神のエコノミーにしたがって、神のみこころを遂行するために信仰によって祈るようにと教えました: **A.** 祈る人が神とミングリングされ、神と一になると、神は彼の信仰となります。これが、神への信仰を持つことの意味するものです。 **B.** 信仰から出た祈りだけが、神に触れます。信仰がなければ、祈りは効果がありません。 **C.** 信仰とは、私たちが求めたものは受けたと信じることです: 主の言葉によれば、私たちが受けるであろうと信じるのではなく、すでに受けたと信じるべきです/望むとは、将来のことを期待することを意味します。信じるとは、ある事がすでになされたと考えることを意味します/信仰とは、神がある事を行なうことができる、あるいは行なうと信じるだけでなく、神がその事をすでに行なったと信じることです。 **D.** マルコ11:20~24の祈りは、権威の祈りです。このような祈りは、神に向けられているのではなく、「この山」に向けられています: 権威の祈りは、神に何かを行なうべくよう求めることではありません。むしろ、神の権威を行使し、この権威を適用して、問題や取り除かれるべき事柄を対処することです/神が私たちに委託したことは、彼がすでに命じた事を命じ、また彼がすでに命令した事を命令することです/権威の祈りは、私たちが妨げているものに去るように告げる祈りです/召会は、完全な信仰を持ち、疑わないうで、私たちの行なう事が完全に神のみこころにしたがっているということをはっきりと知ることによって、このような権威の祈りを持つことができます/権威の祈りは、勝利者と大いに関係があります。すべての勝利者は、「この山」に向かって語ることを学ばなければなりません。

II. ルカ18:1~18において、主イエスは、弟子たちが「絶えず祈るべきであり、また失望しないように」、たとえを話しました: **A.** このたとえの意義は深遠です。私たちはここで啓示されている神を認識する必要があります。 **B.** 3節のやもめは、信者たちを表徴しています。ある意味で、キリストにある信者たちは、今の時代ではやもめです。なぜなら、信者たちの夫であるキリストが表面上、彼らと共におられないからです。 **C.** たとえの中のやもめのように、キリストにある信者たちである私たちには、訴える者である悪魔サタンがいます。この訴える者に関して、私たちは神に復讐していただく必要があります: このたとえは、主が表面上、不在の期間に、私たちが私たちに訴える者から受ける苦難を示しています/主が表面上、不在の期間、私たちはやもめであり、私たちに訴える者は常に私たちに悩ませます。 **D.** 私たちに訴える者が私たちに迫害している間、私たちの神は義でないかのようです。なぜなら、神は、彼の子供たちが不義な迫害を受けるのを許しているからです: 何世紀にもわたって、主イエスに誠実に忠信に従う何千何万という人たちが、不義な虐待を受けています/私たちの神は介入して裁かず、擁護しないので、公正ではないかのようです。この状況のゆえに、主イエスは不義な裁判官を用いて、ご自身の迫害される民のために何も行なわないうように見える神を表徴しました: 私たちの神は、エステ

ル記が示しているように、ご自身を隠す神です/私たちが認識する必要があるのは、私たちが仕えている全能の遍在する神が、ご自身を隠しているということです。特に、彼が私たちに助けている時はそうです/私たちは彼を見ることができません。また、一見すると彼は何も行なっていないかのようです。実は、隠された方法で、彼は私たちのために多くの事を行なっています。 **E.** このたとえのやもめは、不義な裁判官の所に来て、彼女を訴える者に対する復讐を彼に求め続けました。私たちはこの復讐を求めてしつこく(根気強く)祈るべきであり、失望するべきではありません: 私たちの夫が表面上、不在で、私たちが地上にやもめとして残されている時、一時的に、私たちの神は不義な裁判官であるかのようです/神は不義であるかのようですが、私たちは依然として彼に訴え、しつこく(根気強く)祈り、彼を何度も何度も煩わさなければなりません。それは、神が「日夜ご自身に叫び求める」選ばれた者の復讐を速やかに遂行するためです。 **F.** 啓示録8:5は、啓示録6:9~11とルカ18:7~8とに対する答えを暗示しています: 啓示録8:3-4における聖徒たちの祈りは、神のエコノミーに反対する地に対する裁きを求めるものであるに違いありません/地に対する神の裁きは、すなわち、地に火を投げることは、香としてのキリストを伴う聖徒たちの祈りに対する答えです。 **G.** 「人の子が来る時、地上に信仰を見いだすであろうか?」: 「信仰」と訳されたギリシャ語は、文字どおりには、「その信仰」を意味します。これは、やもめの信仰のような、私たちのしつこい(根気強い)祈りのための、根気強い信仰を示します/私たちがそれを通して救われた信仰は、初期の段階の信仰です。私たちがキリストとの命の結合の中へとともたらしした信仰は、結び付ける信仰、すなわち、私たちが三一の神と絶えず接触することを通して私たちの中へと入って来る信仰です。それは、私たちが神の御子によって生きるためです/結び付ける信仰は、キリストが勝利のうちに再来される時にキリストにまみえるための勝利者に対する神聖な要求です: 結び付ける信仰は、私たちの中で行動する三一の神であり、私たちに彼の計り知れない豊富に結び付けます/結び付ける信仰は、自分自身に信頼しない信者たちの信仰です。むしろ、彼らの信頼は神にあります/主イエスは再来する時、結び付ける信仰によって生きている多くの勝利者たちを見いだします。彼はご自身の統治の千年間において、彼らをご自身の王国のための宝と考えます。

### 召会のお知らせと交わり:

#### A) 神戸サマーブレンディング:

リジョイス・ガーデンで、各世代を対象に夏の合宿を実施します。日程は以下の通りです。8/12-13(小5~大学院生)、8/13-14(赤ちゃん~小4)、8/14-15(在職青年)。今回のブレンディングは県外の諸召会(大阪/堺、東京)からも参加します。感染しないように注意しながらブレンディングを行います。

#### B) 福音、牧養の枠組み:

① 毎週水曜(姉妹集会 10~11の後) 11-12 @本山(第2,4週は魚崎)&六甲。② 毎週木曜 10-12 @本山&六甲(第2,4週は三宮)。③ 本山(土) 10-12 (あるいは14:30-16)。④ 魚崎(月) 10:30-12:00, (木) 17-18。⑤ 六甲(土) 16:30-18。⑥ 三宮/神戸(土) 15:30-17:30。

**Crucial Point(1):** 自分の願望に従ってではなく、神のエコノミーに従って、神のみこころを遂行するために、信仰をもって、山に向かって「海に投げ込まれよ」と命じる  
マルコ 11:22 イエスは彼らに答えて言われた、「神への信仰を持ちなさい。23 まことに、私はあなたがたに言う。だれでもこの山に向かって、『持ち上げられて、海に投げ込まれよ』と言い、心の中で疑わず、自分の言うことは成ると信じるなら、そのとおりになる。24 こういうわけで、私はあなたがたに言う。あなたがたが祈って求めるものはすべて、受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。**OL1:**マルコ 11:20～24 で、主イエスは彼の弟子たちに、神のエコノミーにしたがって、神のみこころを遂行するために信仰によって祈るようこと教えました。**OL2:**祈る人が神とミングリングされ、神と一になるとき、神は彼の信仰となります。**OL3:**信仰から出た祈りだけが、神に触れます。信仰がなければ、祈りは効果がありません。**OL4:**主の言葉によれば、私たちは受けるであろうと信じるのではなく、すでに受けたと信じるべきです。**OL5:**この祈りは、権威の祈りです。このような祈りは、山に向けられているのではなく、「この山」に向けられています。権威の祈りは、神に何かを行なっていただくように求めることではありません。むしろ、神の権威を行使し、この権威を適用して、問題や取り除かれるべき事柄を対処することです。すべての勝利者はこのような祈りをするを学ばなければなりません。すべての勝利者は、山に向かって語ることを学ばなければなりません。私たちには多くの弱さがあります。例えば短気、邪悪な思い、体の病などです。もし私たちがこれらの問題について神に懇願しても、あまり成果がないかのようです。しかしながら、私たちが神の権威をこの状況に適用し、山に向かって語るなら、これらの問題は去ります。…山は、私たちの前に立つ問題です。山は、道をふさいで私たちが前進するのを止めるものです。…多くの人は自分の生活や働きの中で山に遭遇するとき、その山を取り除いてくださるよう神に祈ります。しかし神は私たちに、私たち自身が山に向かって語るようにと告げられます。私たちが行なわなければならないことはすべて、山に対する命令の言葉の結果です。「持ち上げられて、海に投げ込まれよ」。山を取り除いてくださるよう神に求めることと、山が取り除かれるよう命じることの間には、大きな違いがあります。神に行って、事を行なってくださるよう神に求めるのは一つの事です。山に直接、投げ込まれよと命じるのは別の事です。私たちがこのような命じる祈りをしばしば見逃しています。神の権威を問題に適用したり、こう言って祈ったりすることはほとんどありません。すなわち、「私の主の御名の中で、去るよ」と命じる」、あるいは、「この事がこれ以上私と共にとどまることを、私は容認できない」。権威の祈りは、私たちが妨げているものに去るよと告げる祈りです。私たちが自分の短気に対して、「去れ」と言うことができます。私たちが病気に対して、「去れ。私は主の復活の命によって起き上がる」と言うことができます。この言葉が語られるのは神に対してではなく、直接、山に対してです。

#### **適用:ビジネスパーソン・大学院生編**

日本のビジネスパーソンは残業や上司などとの付き合いに時間を無駄にしていますが、このようなこの世の

体系から救われるのは容易ではありません。このような生活は召会生活の大きな妨げとなります。サタンが支配するこの世の目的は、主の回復の聖徒たちに正常な召会生活をさせないこと、王国の福音を伝えさせないことなのです。なぜなら、王国の福音は完全な福音であり、主の回復の聖徒たちによって伝えられるはずだからです。王国の福音が全地に伝えられると、サタンの終わりが来るので、彼は自分の時間を少しでも伸ばそうともがいているのです。あなたは日本の残業社会についてこのような鳥瞰的な見方を持ってください。

有益でない飲み会や付き合い的な残業はあなたが神聖な歴史を書くための召会生活を妨げる山です。あなたは別の気の合った人と飲み会に行くためではなく、又自分の趣味のためでもなく、神のエコノミーのために、召会の集会や福音活動に参加するために、この山が取り除かれるための権威の祈りを行うことができます。**兄弟の証し:**私が2003年に医療機器大手の会社に就職して、2005年の薬事法の大改正の担当部門の責任者になった後、業務過多で極めて忙しくなりました。結局、私の部署が会社の中で一番残業が多くなり、人事部に注意されました。私は自分に課せられた責任の重さを感じながら、どのように対応したらいいのか分からず、困惑していました。私は追い込まれて半ばやけくそで次のように祈りました、「主イエスよ、私と私の部署は薬事法の大改正に対応するために極めて忙しいです。しかし、私はみこころのために各種集会に参加しなければなりません。主よ、私にとってこれは矛盾した状況ですが、あなたは私をこの世の体系から私を引き抜くことができると信じます。また、私を妨げる山に取り除かれるように命じます。山よ、海に投げ込まれよ!」と祈りました。私はこのように祈りましたが、実は信仰は小さかったのです。しかし主のあわれみのおかげで、私はそのように祈ることができ、自分の部下たちに、「私たちは労働効率を上げるために残業を制限しましょう。言い換えると、残業を減らして、業績を上げましょう。そして、競合会社に勝ちましょう」と宣言し、説明することができました。この時サタンは直ちに次のように訴えてきました、「あなたの説明していることは人事部の教育テーマとしてはあり得るが、実際の現場ではあり得ない。その証拠に、現場の責任者でそんなのきなことを言っている責任者はこの業界にはいない」。私は、「確かにこの業界にはそのような人はいないが、私は業界で最初の人になってみせる。サタンよ、退け!」と言ってサタンを叱責しました。するとサタンは退きました。このような祈りの後、主は職場を祝福してくださり、残業による召会生活への問題は正常化しました。また、改正薬事法への対応は大成功し、米国本社と大阪府から称賛されました。私はこの経験をきっかけに、神のエコノミーの実行のために、山に向かって命令する権威の祈りを経験し始めました。**祈り:**「おお主イエスよ、今まで不法に自分の繁栄、健康、家族のために多く祈ってきました。私の罪を赦して下さい。私は献身を更新します。主よ、私は神のエコノミーに従って、神のみこころの遂行のために、信仰によって山(妨げる物)に、向かって、『持ち上げられて、海に投げ込まれよ』と命じます。私は心の中で疑わず、自分の言うことは成ると信じます。アーメン!」

**Crucial Point ②: 私たちの信仰としての神をもって、  
失望しないで、根気強く祈り続ける**

ルカ18:1 またイエスは、彼らが絶えず祈るべきであり、また失望しないように、たとえを話して 2 言われた、「ある町に、神を恐れず、人を尊重しない裁判官がいた。3 その町にあるやもめがいて、いつも彼の所に来ては、『私を訴える者に復讐してください』と言っていた。

**OL1:**たとえの中のやもめのように、キリストにある信者たちである私たちには、訴える者である悪魔サタンがいます。この訴える者に関して、私たちは神に復讐していただく必要があります。**OL2:**私たちが訴える者が私たちに迫害している間、私たちの神は義でないかのようです。なぜなら、神は、彼の子供たちが不義な迫害を受けるのを許しているからです。**OL3:**私たちが認識する必要があるのは、私たちが仕えている全能の遍在する神が、ご自身を隠しているということです。特に、彼が私たちを助けている時はそうです。私たちは彼を見ることができません。また、一見すると彼は何も行なっていないかのようです。実は、隠された方法で、彼は私たちのために多くの事を行なっています。**OL4:**このたとえのやもめは、不義な裁判官の所に来て、彼女を訴える者に対する復讐を彼に求め続けました。私たちはこの復讐を求めてしつこく(根気強く)祈るべきであり、失望するべきではありません。

「彼(不義な裁判官)はしばらくは取り上げようとしなかったが、後になって心の内で言った、『私は神を恐れないし、人を尊重しないが、このやもめが私を煩わすから、彼女のために復讐してやろう。そうでないと、ひっきりなしにやって来ては、私を消耗させるであろう。』(4~5節)。これに続いて、主は続けて言われました、「この不義な裁判官の言っていることを聞きなさい。まして神は、日夜ご自身に叫び求める選ばれた者の復讐を決してしないで、彼らをいつまでもほうったままにしておくことがあろうか? 私はあなたがたに言う。彼は速やかに彼らの復讐をなしてください。しかし、人の子が来る時、地上に信仰を見いだすであろうか?」(6~8節)。8節の主の言葉は、神が私たちの敵に復讐することが、救い主の再来のときであることを示しています。「信仰」と訳されたギリシャ語は、文字どおりには「その信仰」を意味します。これはやもめの信仰のような、私たちのしつこい祈りのための、根気強い信仰を示します。ですから、この信仰は客観的な信仰ではなく、主観的な信仰です。

私たちが訴える者が私たちに迫害している間、私たちの神は義でないかのようです。なぜなら、神は、彼の子供たちが不義な迫害を受けるのを許しておられるからです。例えばバプテスマのヨハネは首をはねられ、ペテロは殉教し、パウロは投獄され、ヨハネは流刑にされました。

しばしば私たちは神が私たちに擁護してくださいと祈りました。しかし、私たちの同労者たち、忠信な人たちの多くは投獄され、死に渡されさえました。生きている、義なる神はどこにおられるのでしょうか? 彼はなぜこの状況を容認されるのでしょうか?

私たちが迫害されて、私たちの神は生きておらず、臨在せず、公正ではないかのようである状況の中で、どうするのでしょうか? このたとえから私たちは、煩わすやもめ、しつこく神に祈る者となることを学びます。

**適用: 奉仕者編**

路上福音で多くの18~20歳の大学生がたくさん救われ、召会生活を享受していましたが、ご両親の反対で集会が全くなかった新人は何十人もいます。彼らの両親は自分の子供たちが、将来就職や結婚する時に偶像礼拝しないクリスチャンに対する迫害を恐れているのです。日本の文化の中に、主と教会に対する偏見と反対が強くはびこっています。この文化はサタンが形成したもので、日本人が救われることと救われた後の召会生活を強く反対します。

会社に就職すると、会社では多くの偶像礼拝が入り込んでいることがあります。日本国憲法上は宗教の自由が明記されていますが、伝統的な神社など偶像礼拝が社会や会社に浸透し、8月中旬の時や年始の時に、当たり前のように年中行事として偶像礼拝します。この伝統的な儀式が日本人を縛っています。これらはすべて、クリスチャンに反対するためです。

このような伝統的で、保守的な日本の社会の中で、日本人の若者たちの多くは閉塞感や失望感を持ち、自殺に至ることがあります。若者(15~39歳)の最大の死因は自殺です。あるグローバル規模の調査によると、自分の将来のことについて心配している日本人は78%です。これは他の先進国に比べ、突出して高い値です。一体何がそんなに日本人を生きづらくしているのでしょうか? ある専門家はこの原因は、『こうすべき』という固定観念であると指摘しています。固定観念が西洋世界から来たキリストの福音を受け入れることを拒否し続けています。

地方召会の召会生活でも、この固定観念が、若者や海外からの兄弟姉妹が召会生活に入ってくるのを妨げています。ユダヤ人が主を信じた後もユダヤ教の律法によって縛られ、新約の福音の祝福の享受から逸らされていたように、日本人が主を信じた後も、主を享受し、様々な聖徒たちの間(年長者と若者、日本語を話す聖徒たちと海外からの聖徒たち)のプレディングの生活を妨げています。あなたはその霊の中にあるキリストの十字架の規定を殺す力を経験し、プレディングの召会生活を実行してください。日本人の文化から来る頑固な固定観念を形成させ、召会建造を妨げているのは、悪魔サタンです。

あなたは、日本の文化や伝統を形成し、それを使って長年、日本人を縛ってきている悪魔サタンに神が復讐して下さるように根気強く祈るべきです。実は神は今の時代においても、隠れた方法で召会の祈りに答えておられます。彼は一見なにもされないようですが、実は多くの方法で召会の兄弟姉妹たちの祈りを聞き、隠れた方法で兄弟姉妹たちを助けています(今週のCP1の証しとCP3を参考)。あなたは日本のこの状況を理解したうえで、信仰を持って復讐を求めてしつこく祈るべきであり、決して失望するべきではありません。

**祈り:**「おお主イエスよ、私たち日本人は、豊臣秀吉のクリスチャンに対する大虐殺から430年以上もキリストと召会に猛烈に反対する文化と伝統の中を生きてきました。しかし、私は主のあわれみにより、救われ、主の回復の中で召会生活をしています。主に感謝します。日本人を訴え、縛り続けるサタンに復讐してください。彼を縛り、隅に追いやり、辱めてください。サタンにやられ続ける歴史を終わらせ、召会の福音を前進させてください。アーメン!」

### Crucial Point(3): 結び付ける信仰を持って根気強く祈り、

#### 主の再来の時に、主にまみえる勝利者になる

啓6:9~10 小羊が第五の封印を開いた時、神の言のゆえに、また自分たちが持っていた証しのゆえに、殺された人たちの魂が祭壇の下にいるのを、私は見た。彼らは大声で叫んで言った、「聖なる真実なるご主人さま、いつまであなたは地上に住む者たちを裁かず、私たちの血の報復をなさらないのですか?」。8:4 その香の煙は、聖徒たちの祈りと共に、その御使いの手から神の御前に立ち上った。5 その御使いは香炉を取り、それに祭壇の火を満たして地に投げた。すると、雷鳴と声といわずまと地震とがあった。OL1: 結び付ける信仰は、キリストが勝利のうちに再来される時にキリストにまみえるための勝利者に対する神聖な要求です。

第六の封印が開かれ、第七のラツパは吹き鳴らされる準備ができていますが、キリストが来て、聖徒たちの祈りを香としてのご自身と共に神にささげられるまで、何も起こりません。その時には、雷鳴と声といわずまと地震があります。これが示しているのは、神が地に裁きを執行する意図を持っておられる間、聖徒たちが祈りをもって彼と協力する必要が依然としてあるということです。…この時代の終わりに、人々は神に対してとても反逆的になり、自分たちが神であると全宇宙に宣言するまでになります。神はこれを容認してこられました。忠信な聖徒たちのある者はもはや耐えられずに祈るでしょう、「おお、主権ある主よ、あなたはいつまでこれに耐えられるのですか? あなたはこの反逆を永久に容認されるのですか? あなたが介入してご自身を擁護し、私たちの報復をされるのはいつなのでしょう? 全地がついに、あなたが主であることを知るのはいつなのでしょう?」。最終的に、このような祈りが必要になるでしょう。私たちがみな強いられてこのように祈る時が来ようとしていると、私は信じます。…ある日、その圧力が私たちに臨み、私たちは負担を持ってこのように祈るでしょう。…その時私たちは主に、ご自身を擁護し、すべての反逆的な者たちに彼が神であることを知らせてくださるようにと祈るでしょう。私たちがこのように祈る時、神によって遣わされた御使いは、私たちの祈りをもって神に対して務めをし、ご自身を香としてそれに加えられるでしょう。

私たちが罪人であった時、ある日、神の主権の下で、私たちは福音の宣べ伝え、すなわち、キリストの言葉を聞きました。その言葉を聞くことを通して、信仰が私たちの中へと入って来ました。この信仰は私たちを、キリストとの結合の生活の中へともたらしました。この結合が一種の結び付けることです。結び付ける信仰は、キリストが勝利のうちに再来される時にキリストにまみえるための勝利者に対する神聖な要求です。これはルカ18:8に基づいており、そこで主は、「人の子が来る時、地上に信仰を見いだすであろうか?」と言われました。今日、全世界は不信仰です。今日、異邦人、異教の人々の間だけでなく、ユダヤ人、カトリック、プロテスタント、ペンテコステ派の人々の間でも、どこに信仰があるのでしょうか? …しかし主のあわれみによって、過去、ニー兄弟のリーダーシップを通して、私たちは何についても自分自身に信頼するのではなく、私たちの神がすべてであることを信じることを学ぶ状況へともたらされてきました。

### 適用: 新人及び青少年・大学生編

エルサレムがバビロンによって滅ぼされ、ダニエルを含む多くの人々が捕囚としてバビロンに連れて行かれた時、彼は20歳前後の若者であったはずで、なぜなら70年間の捕囚後のクロス王第一年の帰還の布告時に、彼はまだ生きていたからです。小学校高学年、中高生、大学生、新人の皆さんは、あなたの若い時にダニエルのように、神のみこころを遂行する勝利者となる志を持ち、自分自身を主に捧げてください。ダニエル1:8 ところが、ダニエルは王のえり抜きの食物や王が飲むぶどう酒で自分を汚すまいと心に決めたので、宦官の長に、自分を汚さないようにと求めた。9 神はダニエルに、宦官の長の目の中で好意と深い同情を与えられた。12 「どうか、あなたのしもべを十日間、試してください。私たちに野菜を与えて食べさせ、水を飲ませてください。13 そして、私たちの顔色と、王のえり抜きの食物を食べる若者たちの顔色と見比べてください。そしてあなたが見るところに従って、このしもべたちを扱ってください」。14 そこで、彼は彼らの言うことを聞き入れて、十日間、彼らを試した。15 十日の終わりになると、王のえり抜きの食物を食べた若者よりも、彼らの顔色は良くなり、また体も壮健であった。17 神はこの四人の若者に、知識とあらゆる学問を理解する力と知恵を与えられた。そしてダニエルは、すべてのビジョンと夢を理解した。20 王が彼らに尋ねる知恵と理解のあらゆる事で、彼らは国中のどの魔術師、呪文師よりも十倍もまさっていることがわかった。

ダニエルたち若者は、先ず自分から進んで偶像によって汚されないことを心に決めました。この決定に従って、神は宦官の長に彼らに対する好意を得させました。神のあなたに対する働きは能動受動態です。あなたが信仰によって能動的に一步踏み出さなければ、神は何もすることができません。しかし、信仰によって偶像に捧げられた食物によって汚されまいと決心すると、野菜だけを食べても誰よりも体が健康になることができました。そして彼らは、国中の知者よりも10倍賢かったのです。彼らは捕囚の時であっても、御言葉を信じ、御言葉に基づいて信仰を持ち、信仰によって御言葉の約束に結び付いて祈りました。このようなダニエルたち若者の祈りが、神のみこころであるイスラエルの民の帰還と宮の再建をもたらしました。ですから彼らの祈りは時代を転換させる祈りでした。あなたは今日のダニエルとなって、召会時代から主の再来による千年王国の時代に転換させる志を持って下さい。そして主の約束が早く成就するように、時代を転換させるために祈ってください。あなたが主の再来時に主にまみえる勝利者の一人になれますように!

I テモテ4:12 あなたは年が若いからといって、だれにも軽んじられてはなりません。14 あなたの内にある賜物を軽んじてはいけません。祈り: 「主イエスよ、私を今日のダニエルにしてください。ダニエルと三人の友人は20歳以下の若者でしたが、勝利者になる志を持って、証しのために立ち上がり、偶像によって汚された食物を食べませんでした。彼らは殉教の霊を持って、信仰によりこの事を行いました。私も御言葉を信じ、神のエコミーに結び付き、根気強く祈ります。主の再来の時に、主にまみえる勝利者にならせてください。アーメン!」